

# 症例解析&文献評価ワークショップ 2017：てんかん

## ～患者背景に応じた科学的根拠のある処方提案をするために～

日本アプライド・セラピューティクス学会では、薬物治療を科学的、客観的に評価するための基礎力としての症例解析能力、文献評価能力、情報検索能力の向上を目的に、科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップを開催してきております。てんかんを対象として症例コース、文献評価コースで学んでいただきたいポイントについてご紹介を致します。

### 【症例コース】

今回の対象疾患は新薬の登場や高齢化社会において注目されている「成人てんかん」といたしました。てんかんの治療は薬物相互作用や血中薬物動態を考慮しなければならない疾患です。さらに、てんかんは神経疾患であるがゆえに、薬物治療を評価するうえで重要となる評価指標もてんかんの発作回数抑制率から QOL といった患者背景に関する項目、介護者の負担軽減といった社会的な項目を評価する必要があります。そのため、科学的で合理的な薬物治療を実践するのが難しい疾患といえます。そこで、てんかんの基本的な症例と併存疾患が多数ある高齢者の症例を用意いたしました。ワークショップを通して、てんかんの基本的な薬物治療や、症例の病態等を考慮した科学的に最も適切な薬物治療を選択する方法を学習していただき、日常業務の助けとなれば幸いです。

近年、高齢化社会の中においてポリファーマシー（不適切な多剤併用）が注目を集めている中、不適切な多剤併用の評価の方法について試行錯誤されているかと思えます。多剤併用症例の評価をシンプルにするために、本コースでは疾患毎にプロブレムを立案し、その疾患に対する薬物治療が科学的、効果的、経済的に適切なのかどうかを実践的に活用できるようディスカッション形式で学習できます。

(新座病院 金井紀仁)

### 【文献評価コース】

てんかん治療の長い歴史の中で、従来標準とされてきたバルプロ酸やカルバマゼピン、フェニトインから、近年市販されガイドラインでも標準治療としての位置づけを確立したレベチラセタム、ラモトリギン、トピラマートなど薬物治療において薬剤の選択の幅が広がっています。これらの薬剤の選択のためにガイドラインを確認することは重要ですが、ガイドラインは全ての患者に適応できるとは限りません。根拠となる臨床試験の論文を読み、データや組み入れられた患者について詳しい情報を収集し評価を行うことが、個々の患者に対応するためには必要です。しかし、論文を読むことには抵抗を持たれている方は少なくありません。英語が読めない、統計が分からない、ランダム化して・・・と論文評価を行うためにはいくつものハードルがありますが、本コースではそれぞれについて基礎からわかりやすく解説を行います。そして文献評価を評価シート使用することで評価のポイントを学びながら、最後には論文の強味や限界点を上げられるよう取り組んでいきます。そして、症例コースのてんかん症例に対して評価した論文の結果をどのように適応していけるかを学んでいただくことで、より実臨床に近い形で論文評価の意義を感じていただけるコースにしています。

論文をほとんど読んだことがない方から、論文を定期的に読むけど評価のポイントに自信がない方など多くの方のご参加をお待ちしています。

(越谷市立病院 中田和宏)